

# 那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成24年度第12回（定例会）

署名人 喜久里美也子

委員長 城間 聡

開催日時 平成24年9月20日（木）

開会 午前10時00分

閉会 午前10時50分

開催場所 那覇市教育委員会 第1会議室

出席委員 城間勝委員長、金城眞徳委員、添石幸伸委員、喜久里美也子委員、城間幹子教育長

## 議事日程

○ 委員長職務代理者の指定について

議案第15号 那覇市社会教育委員の解嘱及び委嘱について（生涯学習課）

議案第16号 平成25年度教育委員会組織定数管理運営方針について（総務課）

## 出席職員

【生涯学習部】新城和範部長

（総務課）伊良皆宜俣課長、伊禮弘匡副参事、根間秀夫副参事、平良真哉主査

（生涯学習課）具志真孝課長、比嘉康裕主査

【学校教育部】喜瀬乗英部長、宮内勇人副部長

傍聴人 1名

会議録作成 （総務課）仲間稔主査

城間委員長　ただいまから平成24年度第12回教育委員会会議定例会を開催いたします。本日の会議録署名は喜久里委員にお願いいたします。それでは「委員長職務代理者の指定について」現在は金城委員にお願いしていますが、任期が来月10月5日までとなっています。次の教育委員会会議が10月9日に開催されるため、本日の会議で次期の委員長職務代理者を指名する必要があるということで提案します。次の任期は10月6日から1年間となります。指名について、基本的には単記無記名投票となっていますが、那覇市教育委員会会議規則第2条で委員に異議がなければ指名推選してもいいということになっています。そこで提案しますが、指名推選でよろしいでしょうか。

全　　員　　異議なし

城間委員長　それではどなたかを推選ございましたらお願いします。それでは私の方からよろしいでしょうか。現在、金城委員が職務代理者ですが引き続き推選したいと思いますがいかがでしょうか。

全　　員　　異議なし

城間委員長　全会一致となりましたので、引き続き職務代理者を金城委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。続きまして議案第15号「那覇市社会教育委員の解嘱及び委嘱について」説明をお願いします。

新城部長　提案理由説明

具志課長　資料説明

城間委員長　この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。  
新しいメンバー13名の中で一番任期が長い方はどなたになりますか。

具志課長　現在、議長を務めています宮城能彦先生が4期目に入っています。1期が2年になりますので、7年になります。

城間委員長　任期を聞きましたのは、同じ方が固定されて、役職の場合はやむを得ないと思いますが、人材を活用するという意味では任期を決めて、それ以降はどんな優秀な方でも代えていくという方針があるのでしょうか。この人しかいないということで10年も20年ということもあるのでしょうか。制限は定めているのでしょうか。

具志課長　根拠となる条例、規則では定めていません。

金城委員　社会教育委員の会議というのは年に何回行われますか。

具志課長　おおむね年に3回です。

城間委員長　他ございますか。それでは議案第15号「那覇市社会教育委員の解嘱及び委嘱について」原案どおり決定してよろしいですか。

全　　員　　異議なし

城間委員長　議案第15号については議決確定します。続きまして、議案第16号「平成25年度教育委員会組織定数管理運営方針について」説明をお願いします。

新城部長　提案理由説明

伊良皆課長　資料説明

平良主査 資料説明

城間委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

第2次那覇市定員適正化計画というのは10年ぐらい前からスタートしていますが、どれぐらいの人数が教育委員会事務局で削減されますか。

平良主査 平成17年度に作成され、平成17年度から26年度の10年間で、2959名から最終的には2200名までもっていくという目標数値があります。教育委員会の方は平成17年度当初537名です。平成24年4月1日現在で450名ですが、平成26年度までには430名前後にもっていく予定です。削減率は市長部局のパーセンテージに比べて、教育委員会の方がそれを上回っているというような状況です。

金城委員 平成25年度の定員削減で3名程度減って、それから退職者の補充もしない。そういう中で、これから中核市となって仕事量も増えるだろうし、そういった面では指定管理者とか、それから外部委託等で仕事をする予定でしょうか。

伊良皆課長 定員削減が次年度は3名程度というような形ですが、その中身については用務員、現業職の不補充という形です。それからもう1つは栄養士職で単独校に配置している方が定年で退職することになりますが、その後、給食課の方で小規模共同調理場ということがありますので、そうすると市負担ではなくて県負担という状況があります。もう1つは、来年の1月から教育委員会の方も新庁舎へ一緒になりますから、平成25年度以降については、いま教育委員会の総務課の方で保健師を1名配置していますが、その保健師業務についても市庁舎全体の中でということが想定され、その業務が市長部局の方へ移管ということがありますので3名の減という形で予想できる数字を掲げています。確かに中核市移行や沖縄振興特別推進交付金関係が出てきた部分については、当然、各課の事務量等も十分勘案しながら、いま金城委員がおっしゃったような外部委託等々についても役所の方針にもありますので、そういったものも活用することになります。今後、各課から出てくるヒヤリングの中で、その辺を見ながら増減等々については実施をしていきたいと思います。基本は、既存事務事業の見直しを図りながらスクラップアンドビルドを基本とします。一方の事務量が落ちているのであればそれを減らして、重要度の高い方にもっていくという部分を基本にして、ただ中核市移行に関するもの等々については、一応別枠という形になりますので、通常の事務量の配置については今言ったような部分で対応することになります。

金城委員 先だって小中一貫の問題で各小学校、中学校にコーディネーターを配置するという話がありました。あれは外部に委託という形になるのですか。

伊禮副参事 小中一貫のコーディネーターで現在想定しているのは、中学校の現場の方の県費負担の教員ですので、基本的に教育委員会の定数とは関係していません。県の定数部分ですので、こちらの中には含まれていません。

新城部長 今回の管理運営方針は例年の今ごろ提案をして、次年度に備える組織定数関係ですが、今回は先ほどから説明あるように中核市移行ということでもかなり必要な人員を確保することになります。先ほど2200計画と言っていますが、この人数にするため

に、平成26年度までの目標値を定めています。ところが、中核市移行というのは、この計画が立てられた後に、ここ2、3年内に出てきた市長の大事な公約になっていますが、この分については別という形で、全体で88名が中核市移行に伴う人員が必要だということです。そのうちの54名は保健所関係です。県の保健所を那覇市が譲り受ける。有償、無償ということはありませんが、譲り受けて、その機能を那覇市が中核市として果たす。それに伴う人員が、やはり50数名必要ということです。ですから、そういった意味で2200計画とはまた別な形で必要な人数は、それはそれで確保しようということになっています。そういった中で那覇市の教育委員会の中で、やはりこれはこれまでも説明していますが、研究所は県費負担教職員の研修所が中核市に移行されますので、それに伴う人員の確保等も入ってきています。これも今後また検討しますが、そういった中で定数確保については、そのこのところを押さえて考えていただければと思います。もう1つ、定数ではないですが、文化行政の一元化ということがあります。これまでも説明していますが、文化財課を移管しますが、あくまでも権限そのものは教育委員会がもっているということになります。つまり補助執行の形での移管になります。幼稚園が今こどもみらい部で仕事をしていますが、大事なことを決めるときは教育委員会会議にこどもみらい部が出席して提案します。同じようなシステムです。ですから教育委員会会議で決定する大事な事項については、やはり文化財課がここに参加して説明して決定事項を決めるというシステムになります。しかしながら日常的なことについては、当然、教育委員会とは別で市長部局の方で担当します。もう1つ、沖縄振興特別推進交付金で、これは次年度以降も続くと思いますが、県も概算要求で今年度内の要求をしたいということを言っていますが、最終的にはどの額になるかわかりませんが、これについてもかなりマンパワーが必要な事業になりますので、このことについても今後は教育委員会で定数確保にあたっては人事異動も含めて要注意点となっています。そういった意味で一括交付金については委員の皆様方も注視していただきたいと思います。

添石委員      いま部長から説明ありました文化行政の一元化について、一元化するメリットというか、一元化する理由、また逆に一元化することによっての当面の課題等があれば教えてください。

新城部長      この案件はすでに方向性は定め、これまでも説明していますがなかなかわかりづらい点があります。そういった意味で今後、条例の一部改正、それから組織上の規則等の改正も出てきます。その際、また改めて整理をしたうえで、おっしゃるようなメリット、デメリット、今後の対応、課題、そういった中で説明したいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

添石委員      はい、わかりました。

喜久里委員      2200計画について説明していただきたいということと、もう1つ、430名の予定ということですが、これは正職員ですか。臨時とか非常勤はなしで430名ですか。ということは費用的にもかなり節減できると思いますが、その辺の数字があった

ら教えてください。

伊良皆課長 この2200プランは、平成26年度までに市全体の本務職員を2,200名にしていこうというものです。これまで国あたりでも行財政改革等々があり、そういった中で総務省の指針に、各地方公共団体、市町村もそうですが、その国の動向に従って定員の適正配置という状況がありました。そういう状況を踏まえながら中長期的な定数のものとして、この2200プランが策定されているということです。先ほど話がありましたが、累計でこれまで何百名という形で削減されています。通常、これについても当然、削減するばかりではなく、退職した分については、ある程度補充しなければいけないという状況もありますので、退職した分だけ一気に採用するというわけではなく、年齢構成の平準化を図っていこうということで、採用に関してもある一定程度の枠を着せながら採用しようという形です。これは団塊の世代といわれる大量の退職者が出てきたという状況がありますので、その部分をごっそり採用してしまうと、定年する時にまた大きく採用しなくてはならない。結局、そういった部分の弊害というのは、これだけ大量にノウハウを持った人間が一気にいなくなってしまうと、やはり厳しいものがありますから、その辺で職員の年齢の部分についての平準化を図っていくような形があります。それに近づけながら、年間だいたい4、50名ぐらい。最終的には2,200名という形で適正化を図っています。しかし、これも先ほど部長からもありましたが、中核市移行が出てきたものですから、その分については別途で検討しなければいけないという状況がありますし、今回、沖縄振興特別推進交付金という新たな事業に対応する人員的な部分も必要ですので、この部分については平成26年度が目標値であります。来年あたりにその辺も見直しがされるのかどうか、我々も見守っていきたいと思います。

新城部長 行財政改革を那覇市もずっと進めてきましたが、改革の手法というのはいろいろあります。そういった中で人件費を減らすということはかなり効果的と言えます。平成12年度に人件費が市として230億円。これが平成23年度に186億円ということで約44億円削減されてきたということです。そういった意味では本務職員を減らして、一方では臨時職員や非常勤職員が増えてはいますが、そういった諸々を計算すると財政の削減額は大きいと思います。

金城委員 臨時職員や指定管理等が増えて、そういった意味で仕事を分けて、職員としては仕事量は増えているのですか。

新城部長 市で働いている職員の30%を超える数は臨時、非常勤職員です。そういった職員の生活費の安定性の問題もあつたりして、市職労、その他いろいろ議会サイドでも議論がされますが、そういった意味では定数職員を減らしすぎてはいないかというような意見もありますが、そういったことも含めてアウトソーシングで委託をしたり、指定管理者をしています。そういった中で、いま方針としてはそのように進めています。ただし課題は積もってきています。これは直接因果関係がこうだとは言えませんが、例えば市の職員で心因的な原因で休む職員がいると、これは何が原因なのか。やはり

定数が減らされて、その分だけ業務負担が大きくなったのではないかという意見もあります。しかし、それが正しいかどうかは別ですが、そういった中で定数を減らすということは、それなりのリスクも伴っていると思います。しかしながら今後那覇市がいろいろ行政サービスを更に高めていくためにはその努力をしないと当然できませんので、この方針は変わらないだろうと思います。

城間委員長 他ございますか。それでは議案第16号「平成25年度教育委員会組織定数管理運営方針について」原案どおり決定してよろしいですか。

全 員 異議なし

城間委員長 議案第16号については議決確定します。本日の議案はこの2点ですが、先日、添石委員は急な仕事が入って行けませんでした。真和志中学校の普段着の学校訪問に行きましたので喜久里委員から報告をお願いします。

喜久里委員 図書館に案内していただきましたが、クーラーが故障中で暑い中ではちょっときついなという最初に感想をもちました。全体的には、勉強もいろんな工夫がされ、英語の授業を先生が英語でなさっている。それも小人数で、2クラスに分けて人員的にも大変な中を工夫して英語で授業を行って、英語で先生も生徒もということで、とても驚きました。もう1つ、心因性の子ども達が一時避難して、またちゃんと教室へ戻れるという真和志野教室も見学しました。必ず親教室に戻すという意欲のもと去年、受験生がたくさんそこからいい成績で高校へ進んだということを知りました。先生、生徒、ご家族の思いも含めて成功しているということに関心しました。以上です。

金城委員 そろそろ建て替えの時期ということで本当に古い学校と思いましたし、また歴史館というのがあって真和志中学校の歴史の歩みを展示しているところなどは本当にすごいと思いましたし、また3、4クラスの10学級か11学級でみんな一生懸命勉強している様子で教室は乱れなく大変良いと思いました。茶髪や服装の乱れもない。また校長先生も頼りになりますし、大変すばらしい良い学校で、落ち着いている学校だと思いました。以上です。

城間委員長 入ったらとても暑くて、先生方の研修会も図書館でやるし、もちろん子ども達のいろんな委員会活動も図書館でやります。クーラーの稼働期限はいつまでですか。

城間教育長 10月だったと思います。

城間委員長 クーラーの件で、対応は難しいという話があったようですが、あそこへ入っていくのはちょっとかわいそうだと思います。何らかの形で小さな冷風機等をリースして1か月ぐらいでもカバーできればと思いました。あとは重なりますが、生徒が一生懸命手を挙げて発言したり、英語だけで授業をしているというのは感心しました。

城間教育長 那覇市では英語教育を低学年から入っていたため、その子ども達が中学校へ進学しているので、慣れてきていると思います。

城間委員長 英語で質問して英語で答えて、意思の疎通が十分図られているということは、レベルの高さに関心しました。以上が真和志中学校の普段着の学校訪問の感想でした。以上をもちまして、平成24年度第12回教育委員会会議定例会を終了します。